

「訪問入浴事業について」

訪問入浴とは…

- ・訪問入浴(正式には、訪問入浴介護)とは、自宅に訪問入浴サービスの事業所が訪れ入浴をサポートする介護保険のサービスです

訪問入浴では、利用者の身体の清潔の保持や心身機能の維持を図ることを目的しており、看護職員と介護職員によるサポートで安全な入浴を提供します

(自宅の浴槽での入浴が難しい場合や、施設への通所が難しい場合などに自宅まで訪問し、専用の浴槽を使用して入浴をサポートするサービス)

どんな人達が利用できるの？

***要介護認定もしくは要支援認定を受けている必要があります**

- ・自力での入浴が困難
- ・浴室の環境が悪く、家族や訪問介護のサポートがあっても入浴が困難
- ・デイサービスなど、通いのサービスの利用が難しい
- ・体調管理が必要で、看護職員のサポートが欲しい

入浴は健康な人であっても自分を感じている以上に、体力を消耗します
入浴介助に慣れていない家族がケアを提供することで、浴槽での転倒など
思わぬ事故の原因に繋がることもあり、本人・家族ともに大きな負担となります

訪問入浴介護の利用条件

・**要介護<1～5>認定を受けている方**

・**主治医から入浴を許可されている方**

*要支援<1～2>の方には「自宅に浴槽がない」などの条件付きで訪問入浴介護を受けられる「介護予防訪問入浴」というものがあります

以上の条件を満たし、ケアマネジャーに相談した後、ケアプランを作成してもらい、訪問入浴介護の契約を行うことができます（障害者の方には、障害者訪問入浴サービスもあります。）

サービスにかかる費用

介護度	清拭範囲	1回あたりの費用
要介護1～5	全身浴	1割負担の場合 1260円
	清拭又は部分浴	1134円
要支援1・2	全身浴	1割負担の場合 852円
	清拭又は部分浴	767円

- ・初回加算 200円/月
- ・サービス提供体制強化加算 44円/（令和4.4.1～算定）
- ・介護保険1割の場合の自己負担（所得により2～3割負担の場合あり）
- ・地域により変動する
- ・訪問するスタッフに看護師がない場合（減額）
- ・要介護者の訪問入浴を看護師名・介護スタッフ1名の計2名で行う場合（減額）

訪問入浴のメリット

- **メリット① 身体を清潔に保つことができる**

訪問入浴では、入浴により清潔を保つことができるため、感染症予防になります



- **メリット② 気分転換やリラックス効果**

入浴により気分転換となり、血行もよくなるため褥瘡の予防や改善、便秘の解消などにも役立ちます

- **メリット③ 安全、安心な入浴を行うことができる**

訪問入浴では、看護職員と介護職員により入浴を提供するため、家族の負担軽減にもなり、安全・安心に入浴を行うことができます

訪問入浴のデメリット



- **デメリット① 身体を見られることに抵抗がある場合がある**

利用者の中には、家族以外の職員に身体を見られることに抵抗感を感じる場合があります

*看護師は訪問入浴目的でサービスを提供するため、医師の指示書に書かれていない医療行為は基本的に禁止になります
(痰の吸引・浣腸・摘便・栄養食注入など)

サービス利用・当日の流れ

・訪問入浴当日は、看護職員1名以上・介護職員2名以上の計3名以上が訪問入浴専用の浴槽を乗せた(訪問入浴車)で訪れ、浴槽を利用者宅に運び入れ準備終了です

・入浴の流れ…

- ①健康チェック: 血圧・脈拍・体温など利用者が入浴可能かどうか看護職員が確認します
- ②脱衣・お湯の準備: 健康状態の問題がなければ利用者の脱衣とお湯の準備を行います
- ③ベッドから浴槽に移動し入浴開始(利用者の状態によって全身浴・部分浴・清拭を行います)
- ④上がり湯: 入浴の仕上げにシャワーでお湯をかけます
- ⑤浴槽からベッドに移動
- ⑥着衣・健康チェック
- ⑦片付け
- ⑧終了

* 訪問入浴の所要時間は準備から片付けまで
約50分程度

要介護者の入浴をサポートしてくれる介護サービス

看護職員1名以上
介護職員2名以上が訪問



訪問入浴車



おわりに

訪問入浴は、介護度の高い方が在宅生活を送るためになくはないサービスの一つです

高齢者や要介護者にとって、入浴は生活の大きな楽しみの一つで、できる限り長く在宅生活を送るためにも重要なサービスになります

訪問入浴の事業所は全国的に決して多くありませんが、サービスが必要となった場合の参考にしていただければ嬉しく思います



次のページに、浴槽をセッティングした場合の写真を掲載しています。

【下の写真は、社会福祉大会での事業説明の様子です。】

